

創意工夫

2月号
135号

2020.02.28発刊

～高付加価値部品のトップブランドを目指して～



株式会社 石金精機

個人の成長が会社の成長につながる

「積極的なチャレンジが、スキルアップのキッカケとなる」

Originality a device



清水 克洋

◆石金精機が求める人物像とは

当社のモノづくりの特徴は、様々な業界からの多様な製品の加工を一個から請け負うことです。一品物の部品は複雑かつ高精度の加工が要求されるため職人の手作業による技術介入が不可欠です。この点が他のモノづくり企業とは一線を画している部分であり、お客様から評価を受けている当社の強みだと思っています。

複雑かつ高精度の加工を実現するためには、高い技術力が必要です。しかし、職人一人ひとりが一人前と呼べるレベルになるまでに長い年月を要し、熟練工と若手社員では技術力に差が生じます。当社が請け負う仕事の加工難易度が高いため、この点は必然だと捉えています。

一方で、「自身が単独でやり遂

げた仕事」と「補助を受けながらやり遂げた仕事」、またはコマ単位、ミクロン単位など加工精度によって仕事で味わう達成感は一異なります。単独で困難な仕事をやり遂げた際には大きな達成感を味わうことができると思います。

しかし、先述の通り、熟練工と若手社員では技術力に差があるため、単独で困難な仕事を任せられる技術を習得するまでには多くの時間を要します。

技術を習得する過程において重要な点は、「モノづくりに対する強い思い」だと思っています。ひいてはお客様に良い製品を供給したいという思いが職人の根底にあるべきだと考えています。当社の採用活動においても、「モノづくりに対する強い思い」を重要視しています。現在当社で働く社員の皆様からはその思いを感じたからこそ採用させていただきま

◆職人として成長するために

先述の通り、当社は多様な製品の加工を請け負っています。そのため加工難易度は異なりますが、

職人一人ひとりが様々な加工を経験することができず。その経験の活用方法こそ職人の成長速度に大きく影響を与えます。

様々な加工を経験しただけで終わる人と、新規品など未経験な加工に携わる際に、過去の経験を有効活用できる人では、後者の方が成長するスピードが早く、より短い期間で一人前の職人になることができます。

過去の経験を自身の中で整理し、いつでも応用できる状態にできているかが大切だと思っています。若手社員においては、日々の仕事の中で経験を多く積み、応用できる人材になつて欲しいと思います。

◆会社の技術として伝承する

若手社員には自身の技術力向上を求めますが、ベテラン社員においては、当社に勤めてきた長い期間の中で経験から習得した技術力を活かし、職人としての在り方を日々の仕事に向き合う姿勢で示して欲しいと思います。

また、かつては先輩社員の背中から学ぶことが当たり前だったかもしれませんが、今後は積極的に若手社員に声を掛け、ベテラン社員の皆様が保有する技術力を若手社員に伝承し、個人の技術から、会社の技術へと昇華できるよ

うな技術伝承に取り組むことを期待しています。

◆真の管理職者になつて欲しい

当社の管理職者は、各種作業において優秀な成果を残してきた方を登用しています。そのため管理職に求められるマネジメント能力は、登用後に学ぶ必要があり、管理・監督業務において戸惑う様子も目の当たりにしてきました。しかし、私は、皆様が優秀なプレイングマネージャーになれると信じています。

野球界では「名選手、名監督にあらず」という言葉が使われていますが、当社においては「名選手が、名監督にもなる」必要があると考えています。

◆チャレンジによる失敗は財産

若手から管理職者に至るまで、共通して大切にして欲しいことは積極的なチャレンジです。航空機事業は各種手続が必要ですが、その他の一般部品においては各自の経験に基づくチャレンジ（業務改革）で成果の創出を実現して欲しいと思います。

そのチャレンジが失敗に終わったとしても、ポカミスなどとは異なり、会社にとつても社員にとつてもムダな失敗ではなく、貴重な財産になると考えています。

当社において規格認証を

取得、維持管理する意義とは

■QMS推進室の金尾部長と松木課長、内部監査員の白川課長にそれぞれの立場からの考えを伺いました。



製造部
金尾部長

各部門において、「お客様対応」や「人材育成」「経営管理体制」「品質保証体制」など様々な観点から会社経営の枠組みを整理し、各規格が定める規格要求事項に沿って、自社のルール（マニュアルや規定）を整備します。

▼当社における規格認証の意義
当社ではISO9001、14001とJISQ9100を取得しています。ISO9001は、国際標準化機構（ISO）が定める品質マネジメントシステム、ISO14001は環境マネジメントシステムのことです。

一方でJISQ9100は日本工業規格（JISQ）が定める航空機分野に特化した品質マネジメントシステムのことを指します。

ISO、JISQともに定められた規格に基づき会社経営の仕組みを構築することが目的であり、当社では、その目的達成に向けた手段の一つとして規格取得・維持管理に取り組んでいます。

れば有効的な管理ができるかを検討し、新たなルールとして再整備していききました。

現在は、そのルールに沿った管理ができていくかの経過観察として、各部門から提出される資料や管理者へのヒアリングを基に、適合性の監査を推進しています。

これらの活動を進める内に、当社の管理方法の「どこが」「どのように」不十分であるか、具体的に改善箇所を把握することができました。今後は、その改善箇所の見直しや、監査を進める中で明確になる新たな改善箇所への対応を進めることで、少しずつ会社経営の仕組みを整えていきたいと思っています。

▼各社員へのメッセージ

QMS推進室が中心となり整備した、品質マニュアルや各種規定に沿った行動をお願いします。

また、日常の業務の中で各自が感じるルールに対する不具合や違和感について、活発な意見交換を進めてほしいと思います。

規格要求事項に沿った内容でのルール変更であれば、各自の作業性を踏まえたルールの見直しについて、継続的に取り組んでいきたいと思っています。

また毎年度、会社品質目標が立

案され、各部門目標へと展開されています。各自が目標に拘った意識・行動が必須になりますが、根底にあるのは個人の能力向上だと思っています。

先述の通り、自社のルールに沿った行動かつ、作業性を常に考えることで、個人能力の向上ひいては会社全体の生産性向上につながります。

各役職者については、課員が的確な行動を取れるように、日々の指導の中でリーダーシップを発揮することを期待しています。



品質管理課兼営業課
松木課長

▼QMS推進室の役割

当社では第3次創業期の旗印の下、航空機事業に参入しましたが、航空機関連企業との取引実績は、その他の事業にも好影響を与えています。より高度な要求に対応できる企業であることをお客様に訴求する上で、JISQ9100認定企業であり、かつ航空機業界との取引実績は、非常に効果があると実感しています。

一方で、日々の業務の中でISOとJISQの規格認証のメリットを最大限に活用できていないと実感するようになってきました。

QMS推進室の役割を強化して活動を進めていますが、以前までは内部・外部監査で受ける指摘は少ない方が良くも思っていました。しかし、規格認証を有効活用するとの観点で考えると、指摘をいただくことは、当社がより優れた企業に成長できる大きなチャンスだと気がきました。

指摘を減らすため、無理やり規格要求事項に合わせたルールを整備するのではなく、現状のやり方を尊重した上で、規格要求事項と照らし合わせて、当社にマッチしたルールの再構築に取り組んでいます。

結果として、昨年度と比較し指摘事項件数は増加しましたが、規格認証を活用するための社内の意識や体制が整いつつあると実感しています。

今後、各課長を中心とした現場の意見を取り入れながら自社のルールの整備に取り組んでいきます。

▼当社における理想の状態とは

QMS推進室が無くても各規

格認証でのPDCAサイクルが回るように、会社全体に浸透していることが理想の姿だと思っています。

浸透させるということは、社員一人ひとりが各規格認証を意識した行動を取るのではなく、日々の作業の結果として、各規格認証に適合する状態を指します。

その理想の姿を目指し、金尾部長とともにQMS推進室の活動を推進していきます。



製造三課
白川課長

▼管理者としての役割とは

QMS推進室を中心として、当社の規格認証に対する活動が大きく変化してきました。

しかしながら、当社の現状としては、自社のルール内での行動が徹底できていない様子が見受けられる時があります。少しでもルールを逸脱した行動は、お客様からの要求を満たさない製品を作り上げる可能性があります。些細な行動であってもルールを守るという、当たり前のことを徹底す

る必要があります。

会社の品質目標の達成に向けて、各課員をリードすることが管理者の役割だと思っています。QMS推進室や他の管理者と連携しながら、全社員の意識改革ひいてはルールを守るという会社風土の構築に向けて日々の指導に取り組んでいきたいと思っています。

▼内部監査を受けた所感

当社の規格認証に対する取り組みが本格化したことで、従来と比較し細かな監査を受け、自部門においても不十分な点について多くの指摘を受けました。普段の業務では見えないことや、ルールの捉え方に相違があるなど明確な指摘を頂戴しました。

現在は、その指摘に対する対応を検討しながら、より有効的なルールの整備に向けて意見交換を進めています。

改めて、当社の規格認証に対する取り組みが変化したことで、管理者の一人として受け身ではなく自発的な活動ができれば良いと考えています。



JQA-AS0107
航空機製品用機械
加工部品の製造



JQA-QMA14636
JQA-EM6873

新たなステージでの挑戦

今年1月の組織改編を受け、新たにリーダーに就任された境野リーダーと中河リーダーに抱負を伺いました。



生産管理課 日程管理BK
境野リーダー

▼リーダー就任の率直な感想

昨年末に浅野部長から昇進の打診を受けました。入社してから現在に至るまで、先輩社員の皆さんから多くのことを教えていただきました。そのことに対する感謝の思いを表現するため、そして自分自身も30歳代に突入し、後輩に対し仕事に向き合う姿勢を示すためにも、よいキッカケになると思いました。

業務上大きな変化はありませんが、身の引き締まる思いを実感しています。

▼自身の役割と今後の抱負

お客様からの要求は大きくQCD（品質・価格・納期）の3点に分けられますが、当ブロックでは納期に対する要求にお応えするために、協力工場様を加えた社

内外の調整や材料調達などの納期管理が主な役割です。従来は営業課内に同様の役割を担う部署がありましたが、生産管理課内に単独部署として設立されたことで、より高度な調整および管理が求められます。

その役割を果たすためにも、所属メンバーの業務内容を細かく把握し、メンバー間での横のつながりを強化し、属人化している状態から脱却するための体制を構築していきたいと思っています。まだまだ未熟な点も多々ありますが、ご協力の程よろしくお願ひします。



生産管理課 原価管理BK
中河リーダー

▼リーダー就任の率直な感想

私は新卒社員として入社し、約20年間勤務させていただいています。技術課、営業課を経験した

後、今回の組織改編にて新設された生産管理課 原価管理ブロックのリーダーに就任しました。業務内容としては、技術課時代に取り組んでいた内容と類似していますが、長いブランクがあることと、リーダーという形で携わることになったことで改めて緊張感を持ち業務に取り組んでいます。

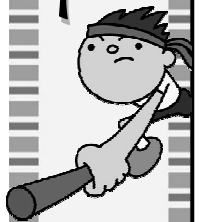
▼自身の役割と今後の抱負

当ブロックの主な業務は、見積りおよび工作カード（作業指示書）の作成です。営業課での経験から、お客様の要求事項を的確に捉えた作業ができれば良いと考えています。工作カードの作成においては、製造部にとって分かりやすくスムーズに加工に取り掛かれるように、工程記号だけでは表現できない情報も盛り込んでいきたいと思っています。

私を含め3名で構成される原価管理ブロックですが、メンバーとは付き合いが長く、お互いに良く知っている仲です。ブロック内でのコミュニケーションを円滑にして、営業課から製造各課に至るまで情報交換などの橋渡し役を担えるように、所属メンバーと協力しながら進めていきたいと思っています。皆様ご協力よろしくお願ひします。

石金精機の

社員紹介リレー



営業課
竹原さん

現在の仕事内容

私は1月度まで、車載向けの切削部品や不二越様のロボット関連製品のリピート品から新規品の営業を担当していましたが、営業部内の担当変更に伴い、不二越様の軸受部品を中心とした営業も担当することになりました。

また、これまでは単独での営業活動がほとんどでしたが、現在は新人の大原さんと共にチームを組んで活動しています。

現状の課題

私は昨年の8月に当社に入社しました。前職もものづくり企業に務めていたため共通するところもありますが、当社ならではの加工技術など、分からないことが多々あります。その上で現状の課題が3点あります。

1点目は、当社の実績の理解です。これまで当社が製作した製品の特長などを深く理解し、お客様に自分の言葉で伝えられるよう

になる必要があります。

2点目は、第1四半期の実績を踏まえた対策の実行です。営業課全体として、リピート品以外は低調に推移したため、目標達成に向けた対策を鈴木リーダーを中心に検討し、着実に実行していきます。

3点目は、チームとしての効果の発揮です。現状は、当社における新人2名のチームであり、不安に思われることもあると思います。その不安を払拭し、チームとしての機能を発揮出来るように大原さんと連携していきます。

当社への入社経緯

九州から富山県にきて20年になります。前職では単身赴任や出張が多く、富山県内で過ごす時間が短かったため当社に入社しました。現在は、家族とじっくり向き合った生活を楽しんでいます。

次回取材対象者の推薦

営業課の大原さんを推薦します。食品関連の営業職からの転職であり、現在一緒に行動する中でユニークな人柄を実感しています。営業課以外の皆様は知らないことも多いと思うので、大原さんの人となりについて伺いたいと思います。

展示会出展報告

2020年2月11日（火）から14日（金）までの4日間に渡りシンガポールで開催された「シンガポール・エアショー2020」に、県内企業6社とソラトヤマブースの一員として共同出展しました。
清水社長とともに参加した、営業課の岡野さんに出展報告をしていただきました。

■展示会の概要について

2年に1回開催される、アジア最大級の航空業界の展示会です。民間航空から軍事航空に至るまで、航空に関わる実機、部品、素材、サービスなど多岐に渡る分野から世界各国の企業が出展し、多くの商談が行われていました。エアショーというだけあり、会期中は一日一回フライングデイスプレイがあり、華やかな展示会という印象を受けました。

展示コーナーには実機展示もあり、パイロット席に座らせていただくなど、普段とは異なる体験もできる展示会でした。

今回は新型コロナウイルスの影響で70社近くが出展キャンセルになった点を残念に思います。

■当社の参加の狙い

先述の通り、県内企業で構成される共同受注体「ソラトヤマ」の一員として、他の企業と連携しながら出展の準備を進めました。

ソラトヤマとしても、当社の航空機事業としても初となる海外での展示会出展でした。今回は、世界中の航空機事業を取り巻く環境や展示会全般に関わる情報収取をメインの目的に据えて進めました。その他、開催事務局が用意したマッチングサービスを活用した商談にも取り組み、海外企業との円滑なやり取りに向けた基盤作りに重点を置きました。

■参加報告

私自身、入社してから初の海外出張であり、全てが新鮮に感じました。また、県内では新聞2紙とテレビ1社で大きく報道されるなど注目度の高い取り組みに携われたことを含めて、大変貴重な体験をさせていただきました。

先述のマッチングサービスにはSNSの「いいね」のような機能が備わっており気軽に出席企業同士でコミュニケーションを取ることができ、展示会の在り方について現代化している印象を受けました。当社では、そのマッチングサービスを活用し、東南アジア諸国やアメリカ、フランス、台湾など約10カ国以上の外国企業から連絡を頂戴しました。どの海外企業も日本企業の技術力に関心を持っており、ジャパンクオリティに対する評価は依然として高いことを

実感しました。

会期中、当社のブースでは高精度・複雑形状の航空機部品を展示しPRしたことで、品物を手に取っていただき、様々な質問を受けるなど来場者に対して当社の技術力を訴求できたと思っています。

今後は、今回の出展で得た情報や反省点を活かして海外での展示会出展を重ねていくことと、今回つながりを持った企業とのやり取りを継続的にを行い、将来的な受注につなげることが必要だと思っています。

初めてのことがばかりで戸惑うことも多々ありましたが、得ることも多い展示会参加になりました。



ソラトヤマブースの集合写真（上）
エアバス社の実機展示（下）

安全衛生委員会からの お知らせ

うがい・手洗いの徹底を。

健康を守る

基本です。

